

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300906
法人名	有限会社 エンジェルハウス
事業所名	グループホーム紙ふうせん
所在地	愛媛県宇和島市三間町成家845番地
自己評価作成日	平成24年8月15日～平成24年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりが安心して暮らせるように、サービスの見直しや計画も、スタッフ、家族と情報提供を行い、要望、希望など聞き、ミーティングやスタッフ会などで話し合いながら支援を行い、又、研修や勉強会などにも取り組み、事故防止や質の向上を目指し、よりよいサービスが出来るよう日々努力している。介護の重度化の見られる方も増加しており、みどりの受け入れにも取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所では、「医療行為が必要でなければ、事業所での看取りが可能である」ことを入居時にご家族に説明されており、5月には、事業所で看取りを支援された事例がある。職員は、ご本人の「やりたいこと、見たいこと、食べたいもの」等が叶うような支援に努められ、利用者が「最期まで笑って過ごせるように」取り組まれた。亡くなる前日にも車いすで散歩され、2日ほど前に入浴もされていた。食事についても、アイスクリーム等、食べられるものを口にできるように支援し、最期は、ご家族と職員が見守る中、お水を口にして「ありがとう」と言葉を残されたようだ。事業所便りで事例を紹介し、運営推進会議時にも報告をされた。ご家族からは、「最期まで看てもらえるので安心した」「親身になってもらえることが嬉しい」等の感想が聞かれた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム紙ふうせん

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 松岡 敬子

評価完了日

平成24年9月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 月1回のスタッフ会議を行い、グループホームの正しい名称など勉強しあったり、紙ふうせんの名前の由来や理念など見直しながら、いつでも初心に戻って現場に立つよう、話し合っている。理念と事業所名がよく合っていて、利用者、スタッフが助け合っていると思う。	
			(外部評価) 開設時作った事業所理念「ふうわりおもいやり ふうわりえがお ふうわりやすらぎ まあるいこころの紙ふうせん」について、スタッフ会議時、見直すか話し合われたが、「このままの理念にしよう」とすべての職員が一致し、継続して理念の実践に取り組まれている。地域の方達とも「おもいやり・えがお」を心がけ、おつき合いされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園や小学校への訪問や、ホームへの訪問など行き来したり、ボランティア、婦人会の方達の参加による納涼祭を行ったりして、地域の方々とのつながりを深めながら交流している。地域の方の参加が継続出来ている。今年は新しいつながりも出来た。	
			(外部評価) 毎年恒例となっている事業所の「納涼祭」は、道の駅等にポスターを貼らせていただいたり、地域の方達にはチラシをポスティングして、多くの方に参加していただいた。ボランティアの協力も増え、今年は新しくフラダンスや和太鼓等を披露していただいた。婦人会や日赤奉仕団の方は、焼きそばやたこ焼き等の出店のお手伝いをしてくださった。事業所で行う「ミニ運動会」も、今年で3回目を迎え、20人ほどの小学生が参加してくれ、利用者は子ども達と一緒に競技を楽しまれた。今年は、司会進行も小学生が担当してくれたようだ。道の駅の駅長からの依頼で、11月のコスモス祭りに向けて、地域の方の畑の一角に、保育園児や小学生も一緒に種まきをされ施設の入居者も参加した。事業所では、今後、毎月事業所で行う職員の勉強会に、地域の方にも参加していただいて、認知症等について一緒に勉強したいと考えておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人からの問い合わせや相談があった時は、分かり易く対応できるよう、全員が連絡を取り合ったり、運営委員会で情報提供したりしながら活かしている。イベントなどを交流により、利用者とも関わりを持ってもらう事により、少しずつ理解してもらえる事も増えた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の開催により、出席者と共に情報交換、現状報告等を行いながら話し合い、向上、改善に活かしている。良い関係作りが出来、イベントなども積極的に協力してもらえる人が出来ている。他の事業所への委員会に参加させてもらっている。	
			(外部評価) 会議には、保育園園長、小学校校長、道の駅駅長、自治会長、家族代表者等が参加されている。避難訓練を行った後の会議時には、自主防災会会長にも参加いただき、訓練の反省会をすることもある。会議は、毎回テーマを決めて取り組まれるが、雑談の中から会話が広がっていくことが多いようだ。他事業所の会議に職員が参加されており、来年度からは、相互に参加し合う予定となっている。	ユニットから1名ずつご家族に案内を出して参加いただいているが、他のご家族も会議に参加できるように、会議の案内を工夫されてはどうだろうか。又、会議議事録を分かりやすくまとめ、ご家族に見ていただき、事業所の取り組みについて感想をうかがってみてはどうだろうか。利用する側である利用者の参加もすすめ、又、ご家族の声を十分に採り入れた話し合いをすすめていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村からの要求や依頼に対しては、業務に支障のない範囲で協力させてもらったり、情報提供の場などがあり、協力関係を築くようにしている。地域だけの事業所連絡会への活動にも参加している。市町村の協力を得ながら、よりよいネットワーク作りに努めたい。	
			(外部評価) 町内の介護事業所でつくる「三間守(みまもり)連絡会」と宇和島市、市社協が合同で「南予いやし博」に、展示する作品を作られた。地元出身の木版画家「畔地梅太郎」の作品を分割して、各事業所で利用者と職員が協力し合い、紙を小さく丸めて絵を仕上げられた。出来上がった作品は道の駅に展示され、利用者は職員と一緒に見に行かれた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束はしないようにしている。その為見守りはスタッフ同士強化している。施設内、居室には鍵はかかっておらず、自由に行動してもらえるように心掛け、拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束に対する意識も徐々に深まり、スタッフ同士確認しあったり、ミーティングで話す機会が増えた。離脱防止の為、やむを得ず施錠する事もある。	
			(外部評価) 利用者の状態によっては、「安全のため」一時的に玄関に施錠をすることもあったが、現在は利用者の状態も落ち着いているため、「一時的な施錠をすることもほとんどなくなっている」ようだ。調査訪問時には、利用者が夜間、トイレに行く際、歩行の不安定な方には、ご本人がベッドから足を下ろした際に鈴が鳴るようにしておられる。布団に鈴を付けている方もみられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 意見箱を設けて、苦情や委員会などミーティングの時に話し合い、常日頃から虐待防止の徹底に努めている。言葉の虐待は、その場で注意し、特に気を付けるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受けた者もいるが、内容の把握は難しいので、参加資料を職員の休憩室に置き、目を通してもらえるよう指導している。理解し実践出来るのは難しいと思う。研修報告書を提出するよう実践しているところである。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に説明し、理解と納得の上で入居してもらっているが、特に問題のある場合には、個別に説明し、同意を得るよう図っている。スタッフも自分の説明出来る範囲で説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時など、管理者が対応し、意見、要望の受け入れが出来やすいような環境を作ったり、日々コミュニケーションがしっかり取れるよう心掛け、苦情、意見などあった場合は、施設内の会議で話し合う機会を設け、改善に向けて反映させている。報告書などは、掲示したりして目に届くようにしている。 (外部評価) ご家族より「家族会という堅苦しいものより、家族同士の交流を持たせてほしい」との要望があり、事業所では、納涼祭やクリスマス会等、毎月行事時には、ご家族に案内して、利用者やご家族同士で交流できるような機会を作っておられる。3ヶ月に一度、季節毎に発行するお便り「紙ふうせん号」は、写真を多く載せて利用者の表情をお伝えできるように取り組んでおられ、又、「ちょコラム」欄を設けて、看取りの事例等も紹介されている。	ご家族の中には、認知症サポーター養成講座の講師役を務められる方もおられ、来年度は、協働して小学校で講座を開くことを計画されていた。又、事業所の新人研修等にも講師になっていただき、ご家族とともに勉強するような機会も作りたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>週1回のミーティングや、月1回のスタッフ会議などで、問題点や要望など話し合いの場を設け、気軽に話が聞ける機会を持つようにして反映させている。個々の意見や提案が反映出来る機会や場所を提供している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、それぞれの得意なこと等が活かせるよう分担を決め、取り組んでおられる。事業所便りを担当する職員は、ご家族等に利用者の「笑顔を伝える」写真が撮れるよう、日頃から意識して取り組まれている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>休憩室でスタッフ同士が、ゆっくり話し合ったり、休むことが出来る。希望休、リフレッシュ休暇など考慮して、職員同士が働きやすく、各自が向上心を持てるよう整備に努めている。勤務状況の把握にも努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者や家族が満足のいくケアが出来るよう、要望、研修内容など職員に聞き勉強会などを設けている。自己学習に消極的なスタッフの対応も考え、実践トレーニングなども取り入れている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>連絡会などの情報交換や勉強会に参加し交流をはかりながら、ネットワーク作りや、ヘルパー実習などの受け入れなど、質の向上に取り組んでいる。同業者同士の情報交換にも努めているが思うようにならないのも現実である。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時や体験入所された時など、きめ細やかなサービスが出来るよう、本人、家族の話をよく聞き、安心が確保出来るよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に話し合う時間を十分取り、利用者や家族に安心してもらえるような関係作りに努めている。希望者は体験入所の受け入れもしている。こまめな情報交換を行いながら信頼関係に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族、関係スタッフでゆっくり話しをしながら、しっかりアセスメントを取り、サービスの対応に努めている。他施設への利用なども助言している。入所前のサービス事業等にも連携を図り、より良い支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来るだけ本人のペースを崩さず行動するよう、スタッフに日々指導しながら、共同生活であることも利用者理解してもらえるよう話しかけ、お互いが支え合っていく関係を築いていけるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や外出、外泊など、自由にしてもらい、家族との関係を忘れないようにするために、本人への支援をしながらお互いの関係を築いていけるよう努めている。本人、家族が後悔しないケアを目指している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしている物や、思い出のある物は、家族と相談して、ある程度までは自由にしており、手紙や電話の受け入れは自由とし、今までの関係が切れないう支援している。入所以前に関わりのある方の面会もあり、職員もありがたいと思う気持ちを伝え、支援の協力をお願いする。 (外部評価) 利用者には、近所の方や職場の同僚だった方、釣り仲間等が訪ねて来てくださっている。以前から行きつけの洋品店に、職員と買い物に行かれる方もいる。ご家族からの希望で、定期的な買い物等に出かけている利用者の方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、フロアにて過ごすよう心掛け、レクリエーションや、生活の中で他の利用者との関わりを大切にしながら、仲間同士お互いが助け合い、支え合って仲良く生活が出来るようスタッフが援助するよう努めている。感情の変化の大変な人には、スタッフが早めに対応し、トラブルがないよう心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方より知人の紹介があったり、再入所の申し込みがあったりして、スタッフと家族の方との関係を大切にしている。退所されても、継続した支援が受けられるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示の出来る方と出来ない方が様々なので、その人の事をしっかり把握できるよう、スタッフ同士情報の交換など密にし、本人をよく知るよう指導している。担当を決め個別ケアと、よりよい気付きに努めている。担当者会議には、本人や家族の参加を呼びかけ要望を伺うよう努めている。 (外部評価) 日々の介護記録には、利用者の言葉や表情等を記録し、思いや意向の把握につなげておられる。職員は、思いを言葉に表すことが難しい利用者の方についても、利用者からの何らかの「サイン」を「よみとる」ことに努めておられる。利用者の生活歴については、ご本人から情報が得にくいいため、今後はご家族にもお聞きしたいと考えておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時からのアセスメントを見直しながら、その人の生きてきた生活環境などを面会時の家族の方などから情報収集し、生活歴を参考にしながら本人の環境に合った日常生活が送れるよう支援内容の向上に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのバイタルチェック表、受診報告書、介護記録などにより健康状態や、心身状態の変化が分かるよう、ユニットリーダー、スタッフ同士の伝達に努めている。本人が孤立する事がないよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回の全体会議や、何かの問題がある毎に、各ユニットごとのスタッフ会議、面会時の家族と本人などにて話し合いの場を設け、その時の状況の変化等を対処法、意見、安全をうかがいながら話し合い、よりよい介護計画への作成に反映されている。更新時には、現状の把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の担当職員が毎月モニタリングを行い、3ヶ月に一度の計画の見直しにつなげておられる。「自宅に帰りたい」気持ちの方には、長期計画を立てて「杖を使っての歩行訓練」することを採り入れられ、「ご自宅に戻って過ごす」ことを実現できたような事例がある。ご自宅は段差が多いこともあり、杖歩行が安定するよう支援を重ねられ、ご自宅で利用者の思うように過ごすことができ、たいへん喜ばれたようだ。次は「家のお風呂に入って帰りたい」という希望も聞かれて、生活意欲の向上につながっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 記録の必要性を自覚してもらい、出来るだけ本人の状況が分かるような記録の書き方など努力し、自然の会話や言葉がそのまま書けるよう努めている。ケアプランを活用して記録され、見直しやケアカンファレンスへの参加意欲も向上している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日々の変化を記録に残し、職員同士で情報を共有しながら、その時に生まれるニーズに合ったサービスが提供出来るよう、必要性に合ったサービスの多機能化に努めている。必要時にケアプランの見直しを行い、本人に合わせたサービスに努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 学校、保育園、地域の方々との交流の場を設け、お互い協力しながら、地域の行事などの参加、ボランティアなどの協力、事業所の開拓に努めている。豊かな暮らしに限られた施設内で充実した日々を送ることが出来るよう支援している。自動車道の開通など新たな地域資源も加わり、更に活動の場が広がった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医とのコミュニケーションもうまく取れており、相談、診察など安心している。かかりつけ医がある場合は、本人、家族の意思を重視しながら、緊急対応先なども把握できており、随時個別に対応しながら支援している。専門病院が少なく選択が出来ない。今年度より、協力医の往診が出来るようになった。	
			(外部評価) 利用者の重度化等に伴い、今年度より協力医療機関をかかりつけ医とされる方は、毎月往診をしていただけるようになった。24時間の対応も可能であるが、入院設備はないため、市の「地域医療連携室」の協力を得て、緊急時にも備えておられる。以前からのかかりつけ医を受診される方には、ご家族が同行されたり、介護タクシーを利用して職員が付き添い、受診を支援されている。月に一度、地域医療連携室の看護師等による勉強会が事業所で行われており、職員からの「浮腫について知りたい」「看取りの勉強会をしてほしい」等の希望に沿って教えていただき、職員は実践の中で役立てておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師の有資格者がいるので、相談、助言をしてもらったり、協力医の看護師と連絡を取り合ったり、デイサービスの看護師のアドバイスを受けて、受診が適切に受けられるよう支援している。協力医の看護師との連携も大切にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院の際には、担当医と協力医との連絡を、電話やファックスなど利用しながら、指示、助言などの情報交換、相談など行っている。病院の地域連携室との連携から、研修会などに協力してもらっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人の体調の変化には十分注意しながら、家族、かかりつけ医の指導のもと、スタッフ同士が状況把握をしっかり行いながらチーム支援に取り組んでいる。状況に応じて、看取り、延命等の話が出る事も増えた。利用者も重度化している。紙ふうせんの新聞などでも入居者の重度化、看取り等について説明している。	
			(外部評価) 事業所では、「医療行為が必要でなければ、事業所での看取りが可能である」ことを入居時にご家族に説明されており、5月には、事業所で看取りを支援された事例がある。職員は、ご本人の「やりたいこと、見たいこと、食べたいもの」等が叶うような支援に努められ、利用者が「最期まで笑って過ごせるように」取り組まれた。亡くなる前日にも車いすで散歩され、2日ほど前に入浴もされていた。食事についても、アイスクリーム等、食べられるものを口にするよう支援し、最期は、ご家族と職員が見守る中、お水を口にして「ありがとう」と言葉を残されたようだ。事業所便りで事例を紹介し、運営推進会議時にも報告をされた。ご家族からは、「最期まで見てもらえるので安心した」「親身になってもらえることが嬉しい」等の感想が聞かれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会や自施設での勉強会、ミーティングなどで対応策を話し合ったり、マニュアルによる指導をしている。研修で応急手当の勉強をしたり、他者から学んだり、一緒に手伝ったりして、技術、知識の習得に努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練や緊急連絡網、避難経路など掲示したり、緊急時の役割分担などもスタッフルームに掲示している。運営委員会にて、自主防災委員会の代表者などにも協力をお願いしている。月一回の避難訓練を実施し、日常的に災害を意識するようにしている。消防団による年末の夜警時の協力も得られるようになっている。	
			(外部評価) 地域では昨年9月に、初めて自治会内で「合同防災避難訓練」が実施された。今年も10月に地域住民や小学校、保育園等が合同で避難訓練が行われ、事業所では、利用者も全員参加して、地域の避難場所である保育園まで避難をされた。事業所独自でも、大きな行事がある月以外は、毎月、訓練を実施しておられ、職員は、通報装置の使い方等を繰り返し訓練されている。火災想定での避難では、職員が建物の外に利用者を誘導した後は、自主防災会の方が見守りをしてくださるようになっている。事業所では、今後、協力してくださる地域の方を含めた連絡網を作成することを予定されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや情報など守秘義務に関しては、随時、徹底して繰り返しながら言い聞かせ、携帯電話のメールや、日常の言葉使いにも十分配慮しながら対応していくよう日々指導している。見守り、声かけ等には、一人ひとりの尊厳を重視した支援を心掛けている。親しき仲にも礼儀ありを心に留めるようにしている。	
			(外部評価) 利用者個々の呼び方については、ご本人やご家族と相談して「以前から呼ばれている呼び方」で呼ぶようにされており、職員は、利用者を「○○ちゃん」「○○ばあちゃん」と呼ぶような様子もみられる。調査訪問時には、職員間の業務上の会話のやりとり等で、配慮が必要ではないかと思われる場面がみられた。 管理者は、「語尾がきつくなるような方言が気になる時があり、第三者が聞いた時にどう思われるか」等、接遇について「見直す時期」ではないかと考えておられる。そのため、11月の勉強会は「接遇」をテーマに開催することを予定されていた。この機会を活かして、今後さらに利用者の立場に立った対応や言葉かけができるよう、時々振り返り点検するような機会を作ってはどうだろうか。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定出来る時は受容を心がけ、出来ない人の為には、家族、スタッフ等で話し合いながら行って本人の要望など、出来るだけ受け入れ出来るように努め、個々に合った援助内容を計画し、実践出来るよう働きかけている。自己決定の困難なケースは、表情、仕草など生活の中から見出す事が出来るよう注意深く支援する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合わせたペースや、くつろぎ方などに心配りを忘れず、また、利用者同士の会話や交流を自由に行ってもらい、その場をゆったりと、スタッフは見守りながら支援している。余裕がなくなるとスタッフのペースになるので、意識しながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理、美容は2ヶ月に1回の割合、業者と連携しながら行い、洋服などの選択は本人が行ったり、スタッフと一緒に選んだりする時もあり、季節感のある物も選んでいる。服のはみ出し、髪の毛の乱れなど、気を付けるよう指導している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来るだけ採れたての物や旬のものを使用するよう心掛け、新鮮味、季節感等を味わいながら、好み、調理法、味付けなど手伝ってもらったり、教えられたりしながら調理したり、片付け、準備など一緒に行っている。利用者の好物を優先する事もある。美味しいと思えるよう盛り付けにも気を配っている。 (外部評価) 以前は事前に献立を立てて食事を作っておられたが、野菜や魚等をいただくことも多く、2ヶ月ほど前より、その日の食事作り担当職員が、食材等を踏まえて利用者の好み等も考慮しながら調理することとなった。調査訪問時は、いただいた鯛を使った「鯛めし」、いただいた蛸やきゅうりを使った「酢の物」、事業所の畑で採れたミニトマト等が食卓を彩っていた。利用者は、野菜の下ごしらえ等をされたり、栗をいただいた時は、包丁を使い渋皮まできれいに剥いてくださったようだ。基本的に両ユニット同じメニューで、分担して作るようにされている。パンを好まれる方もあり、週に一度、朝食はパン食になっている。時にはホットケーキ等を焼くこともあるようだ。時には、ファミリーレストラン等に出かけて外食されており、利用者は焼肉やハンバーグ等を好んで注文されるようだ。おやつは、手作りすることが多く、利用者からの希望で、蒸しパンやおはぎを一緒に作ることもよくある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の状態、習慣などにより、水分、体重、などチェックを行ったりしながら、食事の量や、栄養バランスなど考慮しながらスタッフが調理し、本人からの訴えも受け入れ、チェックをおこない支援している。便秘対策は配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを、声掛けや、見守り、一部介助などで行っている。義歯や口腔用品も定期的に洗浄し、夜間は義歯は取り外している。痛み、臭い等注意しながら行う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ポータブルは使用しないで、ストレスにならないよう気をつけながら、トイレ誘導を主体に努めている。排泄チェックなど毎日行い、パターン、習慣など考慮、周知し自然な排泄に努めている。オムツなどの負担減にも努力している。	
			(外部評価) 食前・食後等、利用者は、順番にトイレに行かれるようなリズムが自然にできているようで、布パンツで過ごしておられる方も多いようだ。尿意があるも、表出の難しい方は、立ったりムズムズするようなしぐさが見られることも多く、職員が見逃さないようにしてトイレに誘っておられる。調査訪問時にも、何度か立とうとされる利用者がおられ、職員がトイレに誘導する様子がみられた。居室にポータブルトイレは置かず、夜間もトイレに座って排泄できるよう支援されており、おむつを使用する方も起きている時には、トイレ誘導するように取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バイタルチェックなどを参考にしながら、水分補給、運動、温タオル、食べ物など注意しながら、出来るだけ自然排便出来るよう取り組んだり、便秘薬の指示をドクターに相談し、対応している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望、施設の事情もあり2日に1回の割合で入浴している。本人の体調状況などにより変更になったり、必要時には毎日入浴に変更になることもあるが、本人の気持ちを主体に流れるようなリズムで介助出来るよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、基本的にリフトの設備がある併設デイサービスの浴室で入浴するようになっている。午前中はデイサービスの利用者が入浴されるため、午後からが利用者の入浴時間となっている。「一番風呂に入りたい」と希望する方には、希望に沿えるようにされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状況で、色々な場所で自由に休んでもらったり、安心して眠れるために、スタッフがバタバタしないよう、寝る前の雰囲気作りにも気をつけながら支援している。出来るだけ薬に頼らず、日中の運動等で本人のペースに合った生活リズムで良眠出来るよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフがA、B、Cと確認し、介助する際などにも再度確認するなどして、間違わないよう心掛け、変化などあった場合は、申し送りにて伝達し、かかりつけ医の指示を受けながら支援している。いつでも確認が出来るようにファイルし、きちんと伝達が行えるように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った役割や楽しみ事など、日常の会話の中から見つけ、日常生活に取り入れたりして気分転換しながら、本人が楽しみのある時間を持てる様支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その時の希望を全て聞き入れる事は出来ないが、年、月間行事を決めたりして、本人の希望する買い物、外食、散歩など本人の体調と相談しながら出来る範囲で支援している。 (外部評価) 事業所の周辺には、季節の花を楽しめる場所が多くあり、調査訪問時、利用者の車いすを職員が押して、もうひとり、歩行可能な利用者として散歩に出かけて、コスモスを摘んで帰って来られる様子がみられた。3月に開通した自動車道が居間からも見え、利用者から「通ってみたい」と希望があり、ドライブをされた。車酔いする方は、事業所周辺を散歩する機会を積極的に作り、又、長い距離を歩くことが難しい利用者の方には、ドライブする機会を作る等、個々の状態に応じて支援されている。近くの道の駅やコンビニに、おやつ等を買いに職員と出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大きなお金の預かりはお断りしているが、本人が必要とされている小口の現金は事務所で預かっており、必要な時本人に渡したり、代行で買い物をしている。本人には、なくなって支障がない分だけ家族が持たせているが、利用者同士、問題が起らないよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族の了解された人には、掛けたり、取次いだりしているが、時間だけは決めてもらっている。手紙などは本人に直接渡したり、読んであげたりしながら、本人の希望を受け入れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関、食堂などに季節の花を植えたり、飾ったり、窓ガラスなどは特殊な物を使用しており、寒さや、暑さ、湿度、プライバシーの保護などにも注意を払い、季節毎のボードの書き替え等気配りに努めている。利用者や来所者が居心地良く過ごす事が出来るよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 居間等の共用空間には、あちこちに利用者と職員が散歩の時等に摘んできたすずきやコスモス、ホトギスの花等の季節の花が飾られていた。居間から出入りできるテラスは広い造りになっており、調査訪問時、テラスに出て外の景色を眺める利用者の様子がうかがえた。日中は、ほとんどの利用者が居間で過ごされるため、畳コーナーには布団が用意されており、ちょっと横になる方もいる。就寝前、寝まきに着替えた後にも居間でテレビを見る方もいる。事業所の裏には畑があり、利用者は、職員と一緒に苗を植えたり、草引き等をされている。又、野菜等の収穫も楽しまれているようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有出来る空間には、ソファやテレビ、畳など設置し、利用者同士気軽に過ごせたり、レクリエーションを出来るスペースを工夫している。利用者の希望を取り入れながら、テーブルの席替えをしたりして、本人の居場所作りを心掛けている。2ユニットを自由に行き来している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家族と本人の希望される物は、出来るだけ持ち込めるよう受け入れているが、転倒の際などに危険性のある物は、最小限にしてもらい、ケガしないように配慮し過ごしやすいよう支援している。居室、リビングは自由に使用してもらい、行動しやすいようスペースを広くしている。</p> <p>(外部評価) ご家族の写真を貼っている方や仏壇を持ち込まれている方もいる。演歌のお好きな方はCDを聞いたり、週刊誌を読まれる方もある。季節毎の衣替えは、基本的に、ご家族が行っておられ、収納クリアケース等を置いて整理されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下を広くとったり、設置してある手すりを、転倒防止や歩行訓練などに利用しながら、安全に生活が送れるよう工夫し、水滴など足回りも徹底し、事故防止などに努めている。常に同じ状態を維持して、迷いがないよう心掛けている。</p>	